

平成25年度 教員免許状更新講習「学校教育と体験活動A」

1 趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

2 主催

国立大学法人 宮城教育大学

3 共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成25年7月29日（月） [日帰り]

5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 野外炊飯場 オリエンテーリングコース

6 参加対象と人数

免許状更新対象者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校教諭） 30名

7 参加状況

	宮城県		東京都		計
	男	女	男	女	
受講者	17	11	0	2	
計	28		2		30

8 日程

時刻	プログラム	内容等	場所
8:30	受付開始		玄関ロビー
9:00 9:10	【開講式】	インフォメーション 諸連絡（事務局）	大研修室
9:10 10:10	【講義1】 「学校教育と自然活動」	講師 宮城教育大学教育学部 教授 笠間 賢二	大研修室
10:20 11:00	【講義2】 「体験学習法の理解」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
11:20 12:00	【実習1】 「火起こし体験」	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 奥山 洋	第2炊飯場

12:00	【実習2】 「スコアOL体験」	講師 国立花山青少年自然の家 事業推進係長 曾根 正幸	オリエンテー リングコース
15:10	【実習3】 「ふりかえり」 (評価と反省)	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 奥山 洋	大研修室
16:10	【試験】 「筆記試験」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
16:40	【評価】 「アンケート記入」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 久光 新一	大研修室
16:50 17:00	【閉講式】	インフォメーション 諸連絡(事務局)	大研修室

9 実施状況

(1) 宮城教育大学との連携・協力



宮城教育大学 笠間賢二教授による講義
「学校教育と自然活動」

宮城教育大学との連携事業であり、講習時間は6時間である。

30名の募集人員に対して定員いっぱいの30名の免許更新対象者が受講した。宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力し合いながら講習を実施した。主に知識に関する部分は大学が担当し、笠間賢二教授による「学校教育と自然活動」と題する講義において学習指導要領の変遷に伴う体験活動の位置づけや具体的な教育効果等についての理解を深めた。

受講者はデータや研究結果に基づいた体験学習法の効果を認識することができた。

(2) 自然の家の特色を生かした体験活動の実施



久光新一主任企画指導専門職による講義
「体験学習法の理解」

自然の家職員による講義では、「体験学習サイクル」に基づく具体的な体験活動プログラムの事例をとおして体験学習に対する理解を深めた。理論と実習を組み合わせることで、受講者自身が児童・生徒の立場になって体験活動の楽しさを実感することができた。与えられた課題に対して、グループ全員で協力し合って課題解決を図る教育手法により、受講者それぞれが「満足感」や「達成感」を味わうことができた。受講者は自然の家で行われる体験活動プログラムの意義やねらいを理解することができた。



「火起こし体験」



「ふりかえり（評価と反省）」

「火起こし体験」の実習では、「マッチ1本だけを使って火を起こそう」という課題に挑戦した。使用できるものは、マキ、なた、マッチ1本だけである。（新聞紙等は使わない）グループでアイデアを出し合いながら、課題解決にあたった。

マッチを数本使用したグループもあったが、自分たちがまずは体験してみることで、児童・生徒の発達段階や実態に応じた体験学習の進め方を考察することができた。起きた火を囲み「指摘」→「分析」→「一般化」という体験型学習法サイクルの流れを確認した。

10 成果と課題

(1) 成果

- ・大学と自然の家が連携協力することにより、それぞれの専門性を生かした講習内容を計画することができた。
- ・「教える立場」と「教えられる立場」を意識することにより、単なる講習ではなく、教育現場での実践に役立つプログラムを提供することができた。
- ・グループでの体験活動を取り入れることにより、受講者相互の交流を深めることができた。
- ・国立花山青少年自然の家の宣伝の効果もあり、教育活動における自然の家の活用の在り方について認識することができた。

(2) 課題

- ・事務的な連携にとどまらず、大学との情報共有や連携協力を密にすることで、受講希望者のニーズにそった情報を発信していくとともに、講習内容について吟味していく。
- ・男女比率や年代などグループとして活動するにあたっての要素を考慮したグループ編成を行っていく。
- ・実技では相当な運動量をとまなう（登山やオリエンテーリング等）ので受講者の健康管理、安全管理についての配慮を考慮する。